SS2009　ポジショニングペーパー

2009/06/15
USP 研究所
當仲寛哲

１、自己紹介

當仲 寛哲(とうなか のぶあき)
1966 年 兵庫県生まれの加古川育ち
趣味 ： ロードバイクで地球上を遊びまわる
　　食べること（料理と食べ歩きとパーティ）
　　数学と音楽と文学と哲学
1992 年 東京大学大学院情報工学専攻中退
　　同年 株式会社ダイエー入社
　　食品マネージャー、衣料品商品部
　　企業改革のために独自手法によるシステムダウンサイジング
2004 年 退職後、有限会社ユニバーサルシェルプログラミング研究所を創立
2007 年 （株）アールケイ・システムズ、(株)リヴァンプビジネスソリューションズ、
　　Khan Solutions LLC を創立
2008 年 IPA 主催ソフトウエア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー2008 受賞
　　商業雑誌における執筆活動
　　AgileJapan2009 / JUAS / JUS 講演活動 など

２、「ユーザー企業の IT 戦略を考える」

a. ユーザー企業にとって、IT は本業をサポートする道具である。
IT はコミュニケーションマネージメントの本質である。
コミュニケーションマネージメントは組織活動の本質である。
b. ユーザー企業が道具として IT に求める本質は、「早い(時間)、安い(コスト)、柔らかい(適応力)」である。
c. IT 企業は、ユーザーの求める優れた道具を専門家として追求し、提供するしかない。
d. ユーザー企業は良い IT を選択できるためのリテラシーを必要としている。また日々進歩する IT のマネージメントを継続的に行えるような体制を築く必要がある。
e. ユーザー企業は、常に IT を考慮した上で、企業戦略などの効果と効率を向上させることに集中すべきである。

３、主張したいこと

a. 「早い(時間)、安い(コスト)、柔らかい(適応力)」ソフトウエア技術は記述の短さと理解容易性と独立性の高さにある。
b. 普遍的なコンピュータアーキテクチャの上で動作する、普遍的 OS と普遍的アプリケーションソフトウエアの研究が必要。
c. コミュニケーションマネージメントの達人は、業務と人情と、コンピュータに通じている。そのような人材を教育して輩出する仕組みが必要。